

第6章 体験Ⅱ－職場体験学習の効果の自由記述による検討

1. 目的

前章では、職場体験後の職場体験全体に対する評価が、職場体験学習の効果に大きな影響を与えていることが示された。具体的には、職場体験が終わった後、自分が体験した職場体験に対する評価が高ければ、将来に対する自信（≒自己効力感）は高まっていた。つまり、職場体験が本人にとって良いものであるとの評価がなされることが、職場体験後の進路意識に良い影響を与えるということが示された。一方、職場体験に行ったとしても、その体験が本人にとって良いものであるとの評価がなされなければ職場体験後の進路意識には必ずしも良い影響を与えないということが示された。

本章では、前章で明らかになった職場体験の効果をさらに掘り下げる形で検討を行いたい。具体的には、以下の3点について検討したいと考える。

第一に、職場体験の前後に職場体験に対するどのような評価がなされた場合に、職場体験後の進路意識は良い方向に変化するのかを、さらに詳細に検討したい。具体的には、職場体験に対する感想についてたずねた項目を詳しく分析し、職場体験前後の意識変化との関連を検討する。

第二に、職場体験に対する評価をより内容的な側面から検討したい。現在、職場体験学習の効果の検討は、おおむね各学校段階のキャリア形成支援の実践の中では必ず含まれている。その中で、多くの学校では、生徒に職場体験学習後に何らかの形で感想を書かせたり、自由記述を行わせるといったことをしている。しかし、職場体験学習後の感想や自由記述を詳しく分析した例は少ない。そこで、本章では、職場体験に対する感想その他の生徒の自由記述を分析することによって、職場体験学習の効果をより詳しく分析することとした。

第三に、特に、職場体験に対する評価を検討するにあたっては、自由記述の量と内容の両面からアプローチすることとする。その理由として、自由記述量（文字数）が何らかの形で職場体験の効果を表す具体的な指標として活用できるということになれば、自由記述量は文字数を数えたり、全体の印象からたくさん書いてあるかそうでないかを見れば良く、自由記述量がすなわち職場体験学習の学習効果を示すということが示せれば、今後の職場体験学習の学習効果を判断する貴重な材料を提供できることになる。ただし、そうした面はありながらも、職場体験後の感想や自由記述に何が書かれてあるのかという内容の分析は不可欠となると思われるので、本章であわせて分析を行う。

本章では、2つのデータセットを用いる。1つは、都内市立中学2年生833名のデータであり、5日間の職場体験の前後で質問紙調査を行ったデータである。こちらは本章第2節と第3節で分析を行った。もう1つは、同時期に同じ都内市立中学2年生を対象に収集したデータであるが、都合により5日間の職場体験後の調査結果しか得られなかった315名のデータである。こちらは本章第4節で分析を行った。どちらも調査は2006年に実施された。

2. 職場体験前後の進路選択に対する自信の変化

(1) 全体的な傾向と男女差

まず前章（第5章）で示されたとおり、職場体験前後で進路選択に対する自信に違いがみられるか否かを、前章のデータとは異なる本章のデータでも確認する。

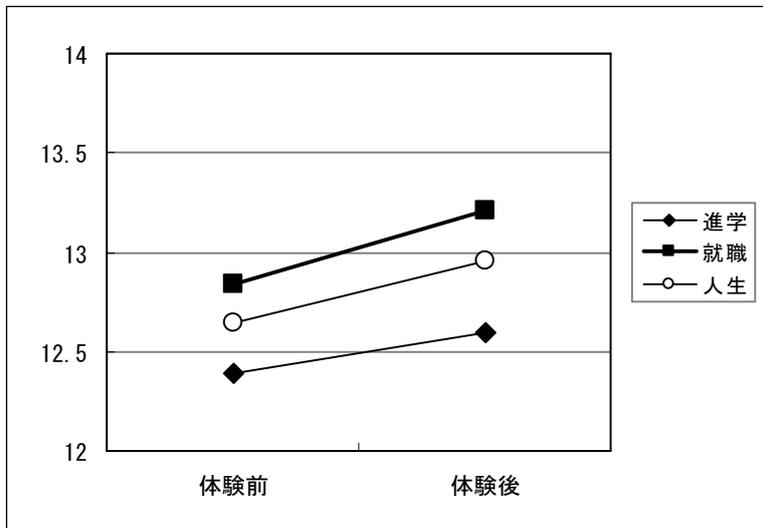
前章と同様、坂柳・清水（1990）の進路課題自信尺度 12 項目を用いた。進路課題自信尺度は、以下の3側面各4項目から構成されている。①進学先の選択に対する自信があるか否かをたずねる4項目（進学自信度「進学先を決めるのに必要な情報・資料を自分で集めること」「進学のための目標や計画をはっきりと立てること」「自分に合う進学先を決めること」「進学した後、充実した学校生活を送ること」）、②就職先の選択に対する自信があるか否かをたずねる4項目（就職自信度「就職先を決めるのに必要な情報・資料を自分で集めること」「就職のための目標や計画をはっきりと立てること」「自分に合う就職先を決めること」「就職した後、充実した職業生活を送ること」）、③人生の選択に対する自信があるか否かをたずねる4項目（人生自信度「人生や生き方を決めるのに必要な情報・資料を自分で集めること」「人生での目標や計画をはっきりと立てること」「自分に合う人生や生き方を決めること」「充実した幸福な人生を送ること」）

進学、就職、人生の3つの選択に関する自信をたずねることによって、幅広く「キャリア」の選択全体に対する自信を測定できるようになっている。

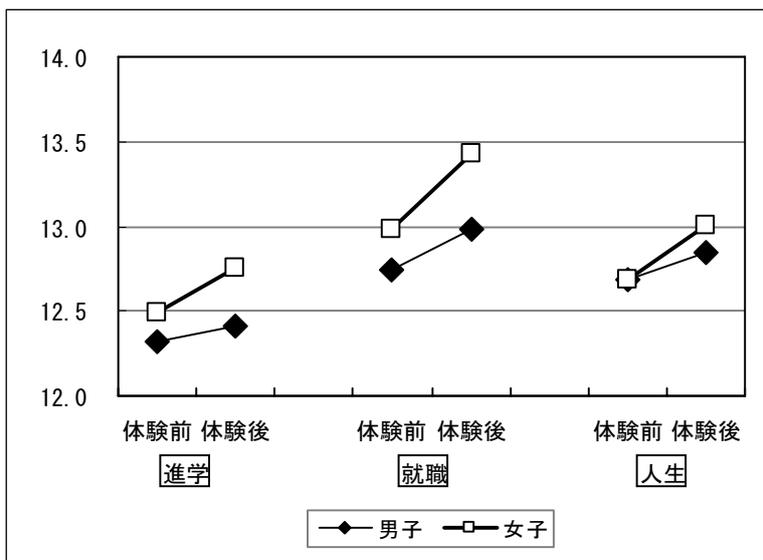
図表6-1は、職場体験前後の進路課題自信尺度の平均値を示したものである。図表から、進学自信度、就職自信度、人生自信度のどの側面でも体験前よりも体験後の方が平均値が高くなっていることが分かる。ただし、厳密には進学自信度は統計的には10%水準の有意傾向であり（ $t(721)=1.85$ $p<.10$ ）、5%水準以下で統計的に有意であったのは就職自信度（ $t(721)=3.19$ $p<.01$ ）、人生自信度（ $t(721)=2.57$ $p<.05$ ）であった。

また、中学生段階のキャリア形成支援では、その効果に男女差が広範に認められる場合が多いため、ここでも職場体験前後の進路課題自信尺度の平均値の違いの男女差を検討した。その結果図表6-2に示すような結果となった。図表から概して女子の方が進路課題自信尺度の値が高く、また、就職自信度に顕著に表れているように女子の方が職場体験後の自信度の高まりは大きいように見える。ただし、統計的には図表6-2のどの点でも性別による違いは厳密には示されておらず、今回のこのデータに関する限り、職場体験前後の進路課題に対する自信の変化には男女差はみられないと言える。

図表6-1 職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化



図表6-2 性別にみた職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化



(2) 職場体験後の感想の分析

本章のデータセットでは、職場体験に対する感想を図表6-3に示した12項目で測定した。これら12項目には意味内容が類似しているものがあるので項目を集約するために因子分析を行った。その結果、図表6-3のような結果となった。

第1因子は、「職場体験に行って、自分がやりたい仕事ははっきりした」「職場体験に行って、自分の将来の目標ははっきりした」など、職場体験に行って自分のやりたいことなり、自分の将来の目標なり、何らかの意味で進路意識が明確化したという感想を抱いたことを表す質問項目の因子負荷量が高かったので、「明瞭化」因子と命名した。

第2因子は、「職場体験に行つて、職場の重要さが分かつた」「職場体験に行つて、働くことの大切さが分かつた」など、職場体験に行くことによって働くことの重要性や大切など、何らかの形での職業に対する理解が深まつたことを表す質問項目の因子負荷量が高かつたので「理解」因子と命名した。

第3因子は、「職場体験先で仕事をするのが面白かつた」「職場体験は、全体的に面白かつた」など、職場体験に行つて何らかの意味で面白いと感じた、やってみたくと思ったなど感情的な印象を深める体験をしたことを表す質問項目の因子負荷量が高かつたので「情動」因子と命名した。

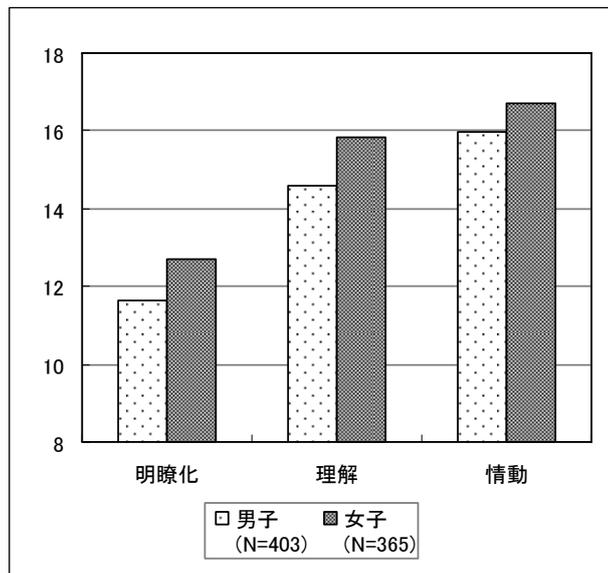
図表6-3 職場体験に対する感想の主成分分析結果(バリマックス回転)

	明瞭化	理解	情動
職場体験に行つて、自分がやりたい仕事ははっきりした	.84	.22	.09
職場体験に行つて、自分の将来の目標ははっきりした	.88	.22	.05
職場体験に行つて、自分に向いていることがはっきりした	.77	.15	.34
職場体験に行つて、自分が得意なことがはっきりした	.72	.19	.31
職場体験先で仕事をするのが面白かつた	.18	.32	.86
職場体験は、全体的に面白かつた	.17	.31	.87
職場体験先の仕事を将来もやってみたくと思った	.54	.13	.62
職場体験先の人と話をするのが面白かつた	.20	.42	.62
職場体験に行つて、職場の重要さが分かつた	.21	.83	.28
職場体験に行つて、働くことの大切さが分かつた	.20	.83	.27
職場体験先の仕事なぜ社会に必要なかが分かつた	.17	.81	.17
職場体験先ではどんな人が働いているのか分かつた	.21	.70	.27
	26.2%	25.7%	22.9%

以上、職場体験に対する感想は、本調査データでは「明瞭化」「理解」「情動」の3つの側面から捉えられることが示された。以後、本章では、図表6-3で各因子に高く負荷している項目(太字)を合計して、それぞれ「明瞭化」得点、「理解」得点、「情動」得点として検討を行う。

なお、「明瞭化」得点、「理解」得点、「情動」得点は、いずれも男女差がみられており、図表6-4に示したとおり、どの得点でも女子の方が男子よりも値が大きいことに留意しておきたい。すなわち、中学生の男子と女子では、総じて女子の方が「明瞭化」「理解」「情動」のどの側面においても、職場体験に対する事後の捉え方がポジティブであることが示される。

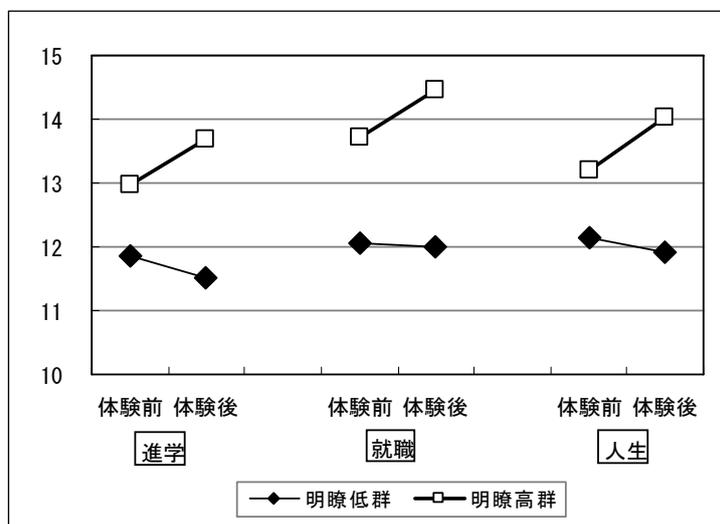
図表6-4 職場体験後の感想(明瞭化、理解、情動)の性別による違い



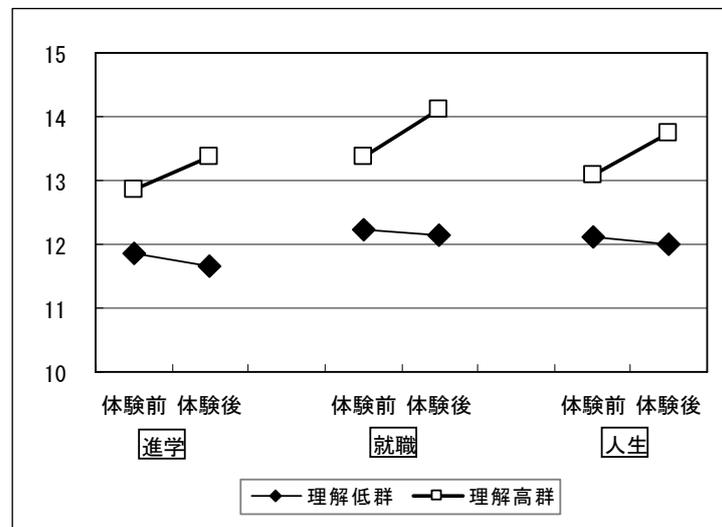
図表6-5～図表6-7に、職場体験の感想「明瞭化」「理解」「情動」得点の高い生徒と低い生徒で、職場体験前後の進路課題自信尺度の値の変化がどのように異なるかを示した。なお、「明瞭化」「理解」「情動」のそれぞれ上位50%を高群、下位50%を低群とした。

図表6-5～図表6-7について、それぞれ2要因分散分析を行った結果、いずれも体験前・体験後の要因および明瞭化高群・低群の要因の交互作用が有意であった(図表6-5 $F(1,708)=23.94$ $p<.01$; 図表6-6 $F(1,707)=12.45$ $p<.01$; 図表6-7 $F(1,714)=18.12$ $p<.01$)。グラフの形状から、総じて職場体験後の感想「明瞭化」「理解」「情動」の高群では体験前よりも体験後の方が進路課題自信尺度の値が大きいものに対して、低群では体験前後で値が変わらないか若干小さくなっていた。

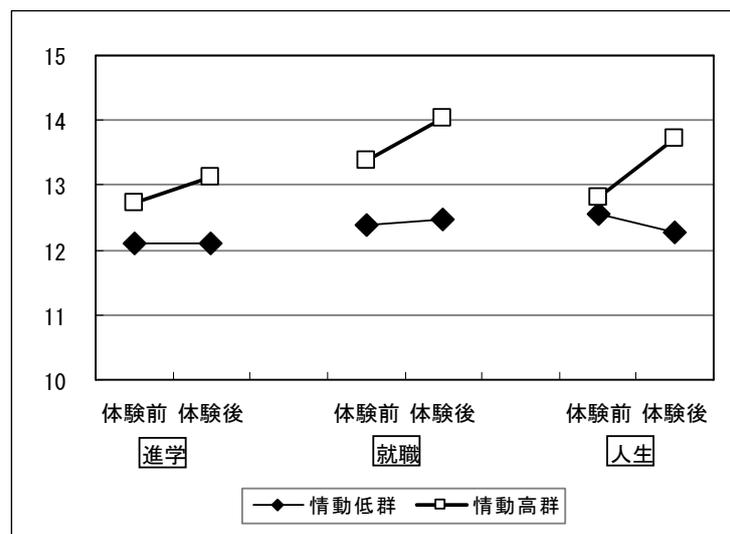
図表6-5 職場体験の感想「明瞭化」別の
職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化



図表6-6 職場体験の感想「理解」別の
職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化



図表6-7 職場体験の感想「情動」別の
職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化



図表6-5～図表6-7の分析結果から、職場体験後の感想は、自分のやりたいや将来の目標が明瞭化するという意味での「明瞭化」、職業に対する理解が深まったという意味での「理解」、面白いと感じるなど感情的な印象を深めたという意味での「情動」のいずれの側面でも、何らかの形で印象が深ければその後の進路意識（ここでは進路課題自信尺度）が高まることが示された。

(3) 職場体験後の感想が職場体験前後の進路選択に対する自信の変化に与える影響(小括)より厳密に「明瞭化」「理解」「情動」のどの側面が職場体験前後の進路課題自信尺度の得点の変化に影響を与えているのかを検討するために、重回帰分析を用いた検討を行った。具体的には、進路課題自信尺度の各得点について体験後の得点から体験前の得点を引いて自信の変化の大きさを表す差得点を求めて被説明変数とした。職場体験の感想「明瞭化」「情動」「理解」の3つの得点と、性別(男子、女子)のダミー変数を説明変数とした。

重回帰分析の結果、進路課題自信尺度のうち、進学先をうまく選べるという進学自信度と就職先をうまく選べるという就職自信度には「明瞭化」と「理解」が統計的に有意な影響を与えており、「情動」は影響を与えていなかった。一方で、人生をうまく送ることができるという自信である人生自信度には「明瞭化」と「情動」が統計的に有意な影響を与えていた。

この結果については、いくつかの解釈が可能であると思われるが、「進学」や「就職」など中学生にとって直近の、より具体的な将来の進路選択に近いものに対する自信は、職場体験に行き、具体的に何かになりたいと思ったり、職業に対する具体的な理解が深まったりといった経験に伴って変化するものと考察される。一方で、より長期的な人生全体に対する漠然とした自信は、具体的な職業に対する理解とは直接の関係はなく、職場体験に行き面白く感じることができるといったある種の楽観性や新奇なものに積極的に興味関心といったものと関わりが深いものと解釈される。また別の解釈としては、職場体験に行き面白く、楽しいといった経験をすることによって、大人の職場全体に受け入れられたという感覚が、人生全体に対する自信に影響を与えるといったことも考えられる。ただし、これら複数の解釈のうち、どのような説明が正しいのかについては、今後も引き続き検討が必要であると思われる。

図表6-8 職場体験後の感想(明瞭化、情動、理解)が
職場体験前後の進路課題自信尺度(進学・就職・人生)の変化に与える影響

	進学		就職		人生	
	β	sig.	β	sig.	β	sig.
明瞭化	.19	**	.15	**	.10	*
情動	.00		.00		.11	*
理解	.12	**	.14	**	.05	
性別(1=男子、2=女子)	-.04		-.02		-.03	
	$R^2=.07**$		$R^2=.06**$		$R^2=.05**$	

※ β は標準偏回帰係数。 ** $p<.01$ * $p<.05$

3. 職場体験後の自由記述量の検討

前節では、職場体験前後の進路選択に対する自信の変化を、職場体験後の感想「明瞭化」「情動」「理解」の3つの側面から検討した。

本節では、職場体験前後で生じている意識面での変化をより詳しくとらえるために、職場体験に参加した中学生の自由記述データを分析することとする。

職場体験後に中学生に自由にその感想を書かせるといったことは、全国の中学校の職場体験学習の実践において日常的に行われている。これは、中学生の職場体験の効果を数値データだけではなく、文字として、すなわち質的なデータとしても把握しておきたいという理由からなされる。その一方で、自由記述を行わせることによって、中学生が職場体験で学習した内容や気がついた点を、中学生の記憶や内面により鮮明な形で定着させることを狙いとしている。つまり、職場体験で感じたことを書くことによって、より大きな教育効果を得ようとしていると言える。

したがって、職場体験後の自由記述には、生徒が職場体験で学習したことや経験したことが多面的に現れていることが想定されるのであり、職場体験前後の意識変化をより詳細により具体的に検証しようとする本章の目的からは、有益な情報提供が得られるデータとなる。

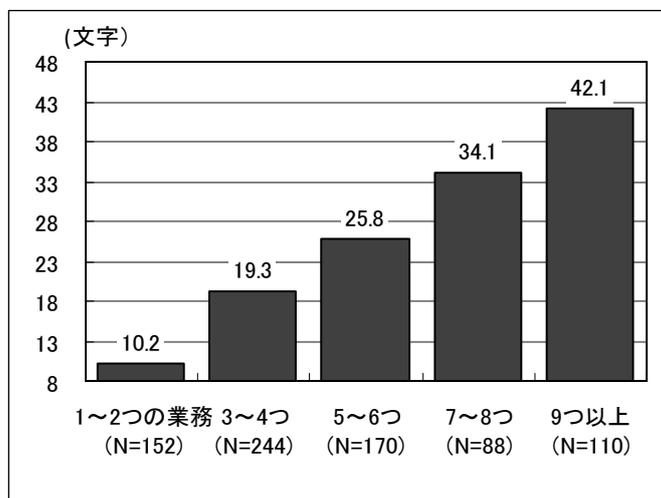
以上のことから、本節では、中学生の職場体験後の自由記述内容について分析を行うこととした。

(1) 体験した業務内容に関する自由記述

中学生の職場体験後の自由記述内容のうち、まず最初に、中学生が書いた「体験した業務内容」に焦点を当てる。この調査では、自分が経験した「業務内容（仕事の種類）」の数について質問項目でたずね、具体的にどんな業務を体験したのか自由記述で記入するように求めた。

図表6-9には、職場体験で体験した業務（仕事）の数別に、体験した業務内容に関する自由記述欄の文字数を数え上げた結果を示した。当然ながら、1～2つの業務しか体験しなかったという生徒は自由記述量も少なく、9つ以上体験したという生徒は自由記述量も多くなっている。

図表6-9 職場体験で経験した業務(仕事)の数と
体験した業務内容に関する自由記述量(文字数)の関連



ただし、こうした結果は必ずしも「実際に」どのくらいの体験を、職場体験先で行ったのかを反映するものではない。例えば、図表6-10には、今回の調査回答者である中学生のうち保育園に職場体験に行った生徒の自由記述を一部掲載した。この結果から、同じ保育園に職場体験に行った生徒でも記述に粗密があることがうかがえる。これは、例えば図表6-10の下部分にある「J保育園」のみを比較しても言えることであり、同じようにJ保育園に職場体験に行った生徒でも、体験した業務内容を事細かく記述できるか否かは、個々の生徒によって異なる面が大きい。

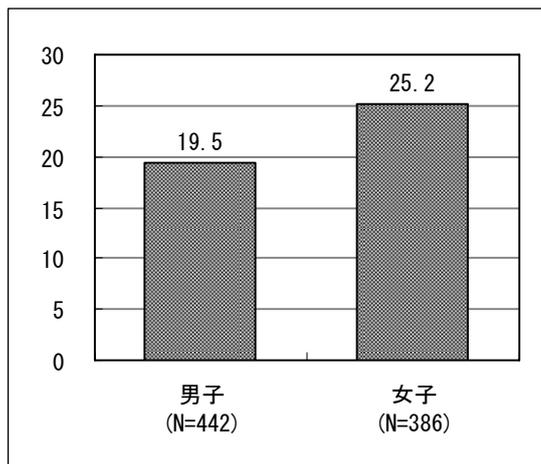
すなわち、職場体験後の自由記述内容は、実際に経験した職場体験内容そのものよりも、それが生徒の中でどのように受け止められ、どのように記憶の中で整理されたのかによって規定される部分が多い。そして、職場体験後の自由記述内容における個々の生徒間の個人差が大きいことから、この自由記述における文字数が、職場体験をどのように受け止めたかを示す有益な質的指標となると想定される。

図表6-10 職場体験先が「保育園」であった生徒による
体験した業務内容に関する自由記述例(一部)

職場体験先	体験した業務内容
A 保育園	子供の世話 部屋・トイレ等の掃除 昼食・おやつ準備 (テーブル・イス等の準)
B 保育園	保育
C 保育園	子どもたちのめんどう そうじ
C 保育園	
B 保育園	園児たちの世話 食器の片づけ おもちゃのそうじ 消毒 (コップ etc. . .)
D 保育園	園児の保育 学童の手伝い おもちゃを運んだり
E 保育園	子どもと遊ぶ 運動会の用具作り お楽しみ会の用具作り
C 保育園	保育、そうじ など
F 保育園	子供たちのせわ
G 保育園	子供と遊ぶ事 今後使う物の製作 運動会の練習
B 保育園	園児と遊ぶ ゆか・たなふき 洗たく干し コップ洗い トイレそうじ
B 保育園	洗たく 散歩 掃除 食べた後の食器さげの手伝い(テーブルふき) 子供とあそび ゆうぐの水洗い コップ洗い おりがみ作り 自由帳作り
H 保育園	子ども あづかり あそび しつけ
G 保育園	子供の世話
H 保育園	子供のめんどうを見る 物を作る など
I 保育園	クラス体験 らくがき帳づくり そうじ 洗濯物干し
D 保育園	昼食準備・片付け 運動会準備 お昼寝 お遊び お散歩 運動会予行
G 保育園	一緒に遊んだ ふとんをしいた 一緒にものを作った 着替えをさせた 運動会の練習の準備。ゆう導
D 保育園	そうじ 子どもたちのめんどう 運動会の道具作り 荷物を運ぶ はこづくり 小学生と遊ぶ 小さい子と遊ぶ など
F 保育園	子供にごはんを食べさせる(0歳児) 子供を寝かしつける 子供と遊ぶ 子供の着替えを手伝う トイレそうじ おむつがえ(0歳児) まとめて子供のめんどうを見る
C 保育園	子供と遊ぶ いろいろな準備 片付け 外で草取り テラスの砂取り ぞうきんぬい等
H 保育園	せんたく そうじ かたづけ 子どもたちのめんどうぜんばん
F 保育園	着がえさせ オムツがえ そうじ 遊び相手
J 保育園	保育
H 保育園	道具運び 園児の面倒を見る
H 保育園	子供たちと遊び お散歩 かたづけ げき 整理 ごはん 着がえの手伝い
K 保育園	子供と遊ぶ お手伝い(いろいろと)
J 保育園	子供連と遊ぶ そうじなど
J 保育園	雑用、子供と遊ぶ事
J 保育園	一緒にあそび そうじ 石ひろい ねかしつけ ご飯を配る かざり作り 歌詞をかく
K 保育園	
K 保育園	いろいろ

なお図表6-11に示したとおり、体験した業務内容に関する自由記述には性別による差があり、女子の方が男子よりも統計的に有意に記述量が多い ($t(826)=4.35$ $p<.01$)。こうした結果も自由記述量が個人差と深く関わっていることの傍証として捉えられる。

図表6-11 体験した業務内容に関する自由記述の性別による違い



図表6-12には、体験した業務内容に関する自由記述量と、職場体験前後の進路課題自信尺度および職場体験に対する感想との相関係数を示した。自由記述量は、職場体験前後の進路課題自信尺度の値とは統計的に有意な相関関係がみられなかったが、職場体験に対する感想「情動」「理解」との間に統計的に有意な相関関係がみられた。体験した業務内容を詳しく書ける生徒ほど、職場体験に対する「おもしろかった」などの情動的な側面、仕事の内容が分かったなどの認知的な側面で強い印象をもったことが示される。先に図表6-8で、「情動」「理解」がそれぞれ職場体験前後の進路課題自信尺度の変化に影響を与えていたことから、図表6-12では直接的な関連がみられなくとも間接的に進路選択に対する自信に影響を与えていることが推測される。

図表6-12 体験した業務内容と職場体験前後の
進路課題自信尺度および職場体験に対する感想との相関係数

	相関 係数	sig.
職場体験前		
進学に対する自信	.054	
就職に対する自信	.016	
人生に対する自信	.047	
職場体験後		
進学に対する自信	.062	
就職に対する自信	.032	
人生に対する自信	.024	
体験前後の変化		
進学に対する自信	.025	
就職に対する自信	.048	
人生に対する自信	-.008	
職場体験に対する感想		
明瞭化	.062	
情動	.119	**
理解	.092	*

※数値はスピアマンの順位相関係数。
** p<.01 * p<.05

(2) 職場体験全般に関する自由記述量（文字数）の分析

前項で分析した「体験した業務内容」に関する自由記述以外にも、12項目の自由記述を求めた。12項目の内容は図表6-13に示したとおりである。各質問について記述された文字数を数え上げた結果、どの質問についても平均して約8文字～12文字程度が記述されていた。図表6-11同様、どの質問項目についても自由記述量は女子の方が男子よりも統計的に有意に多かった。

図表6-13 体験した業務内容と職場体験前後の
進路課題自信尺度および職場体験に対する自由記述量との相関係数

	全体		男子		女子	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
職場体験でいちばん覚えていることは、	12.95	11.14	10.03	8.00	16.35	13.08
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	10.97	9.25	8.43	7.00	13.94	10.53
職場体験でいちばんつらかったことは、	10.15	9.86	7.95	7.62	12.75	11.40
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	9.32	8.65	7.64	7.07	11.34	9.80
職場体験について、親と話したことは、	8.95	8.13	6.84	6.23	11.47	9.27
職場体験について、友達と話したことは、	8.36	7.64	6.38	5.76	10.72	8.80
職場体験先の人と話したことは、	9.10	7.47	7.00	5.87	11.63	8.27
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	7.81	7.80	6.04	6.12	9.93	8.92
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	9.78	9.95	8.39	8.80	11.50	10.91
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	7.78	8.68	5.90	5.96	10.04	10.59
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	8.90	8.80	7.47	8.02	10.66	9.35
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	8.72	8.68	6.89	6.94	10.92	9.90

図表6-14 職場体験に関する自由記述の例

6. 以下の質問項目について、あなたが思ったことを書いてください。

1	職場体験でいちばん覚えていることは、 <u>生徒が私たちにたくさんあいさつしてくれたこと。</u>
2	職場体験をしていちばん楽しかったのは、 <u>担当した1年生のクラスの子達が手を引っぱって行って「外で遊ぶぞう」と誘ってくれて、一緒に遊んだこと。</u>
3	職場体験でいちばんつらかったことは、 <u>校長先生から出される質問について答えるときや、遅くまで時間がかかったとき。</u>
4	職場体験でいちばん自分に役立ったことは、 <u>知らなかったトとの会話や、小学校の生徒達へのあいさつ。</u>
5	職場体験について、親と話したことは、 <u>この体験を生かして、将来の仕事について真剣に考えるという事。</u>
6	職場体験について、友達と話したことは、 <u>最初につらかったり、疲れたり、大変だったけど、小さい子といるといめされるという事。</u>
7	職場体験先の人と話したことは、 <u>最初のうちは緊張するけど、しだいに仕事が楽しくなる。</u>
8	職場体験が終わって、これからやろうと思うことは、 <u>目上の人に対する礼儀をしっかりとする。(言葉づかいやあいさつ)</u>
9	職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、 <u>物事を簡単に片付けないで、自分の言葉に責任をもち。</u>
10	職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、 <u>普通に高校に行きながら、少しづつ将来に向けての勉強をしたい。</u>
11	職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、 <u>今のまま、良いところを伸ばして行ってほしい。</u>
12	職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、 <u>自分の性格や環境に合った仕事につきたい。</u>

ありがとうございました。

図表6-14に、どのような形式で自由記述がなされているのか様子を示すために実際の調査用紙に記入された回答を示した。概して、ある質問項目に長い記述を行う生徒は他の質問項目に対しても長く記述を行う傾向がみられるようであった。そこで、各質問項目に対する自由記述量（文字数）間の順位相関係数を求めた（どの項目も分布が偏っていたので順位相関係数を求めた）。

その結果、基本的に全自由記述間で統計的に有意で比較的大きな値の相関係数がみられたが、なかでも最も相関係数の値が大きかったのは「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」「職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは」「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは」間の相関であった。また、「職場体験について、親と話したことは」「職場体験について、友達と話したことは」「職場体験先の人と話したことは」間の相関係数も大きかった。職場体験の結果、進学なり

職場なり将来なりについて考えたことを記述する量は相互に関連していること、また、職場体験について人と話したことを記述する量も相互に関連していることが示される。

図表6-15 職場体験に関する自由記述量(文字数)間の相関係数(順位相関係数)

	業務内容	覚えていること	楽しかったこと	つらかったこと	自分に役立ったこと	親と話したこと	友達と話したこと	職場体験先の人と話したこと	これからやろうと思うこと	自分の考え方が変わったところ	進学について考えていること	職場について考えていること	これからの将来について考えていること
体験した業務内容													
職場体験でいちばん覚えていることは、	.334												
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	.288	.565											
職場体験でいちばんつらかったことは、	.231	.461	.517										
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	.286	.487	.491	.433									
職場体験について、親と話したことは、	.273	.457	.481	.454	.493								
職場体験について、友達と話したことは、	.280	.471	.447	.440	.482	.656							
職場体験先の人と話したことは、	.319	.459	.453	.423	.486	.570	.588						
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	.258	.441	.404	.397	.480	.503	.480	.491					
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	.274	.393	.325	.384	.391	.458	.467	.484	.496				
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	.281	.391	.338	.344	.450	.482	.500	.483	.557	.506			
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	.272	.426	.348	.381	.416	.503	.522	.520	.504	.570	.618		
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	.204	.379	.346	.337	.383	.445	.500	.459	.518	.541	.626	.611	

※相関係数が.50以上のものに太字下線を付した。

図表6-15から、職場体験に関する自由記述量には相互に関連があり、いくつかのグループに分類できる見込みが得られたので因子分析を行った。なお、各質問項目の自由記述にも分布が偏っていたので対数変換を行って、因子分析を行った(最尤法プロマックス回転)。ただし、因子の抽出法や回転の方法、対数変換をかけない場合でも因子分析の結果は変わらなかった。

因子分析の結果、固有値1以上の2つの因子に回転をかけて解釈を行ったは第1因子は因子負荷量大きい順に「職場体験をしていちばん楽しかったのは」「職場体験でいちばん覚えていることは」「職場体験でいちばんつらかったことは」などであった。基本的に職場体験の記憶や印象に関する自由記述が同じグループに入っていると言える。また、「親と話したことは」「友達と話したことは」「体験先の人と話したことは」など職場体験について人と話したことにに関する自由記述もこちらの第1因子に含まれていた。

第2因子には因子負荷量大きい順に「職場体験が終わって、これからの将来について、

今、考えていることは」「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」「職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは」などであった。おおむねこれからの将来についての自由記述が同じグループに入っていたと言える。

図表6-16 職場体験後の自由記述量(文字数)の因子分析結果

	記憶・将来に 印象に 関する 関する 自由記 自由記 述因子 述因子	
体験した業務内容	.419	.090
職場体験でいちばん覚えていることは、	.768	.005
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	.923	-.169
職場体験でいちばんつらかったことは、	.719	-.015
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	.590	.149
職場体験について、親と話したことは、	.539	.271
職場体験について、友達と話したことは、	.432	.386
職場体験先の人と話したことは、	.468	.357
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	.252	.508
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	.090	.657
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	-.037	.818
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	-.018	.813
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	-.089	.859
	因子間相関	.742

以上の結果から、職場体験に関する自由記述は、①職場体験を行って記憶や印象に残ったことに関するものと、②これからの将来に関するものの2つの側面に分けられることが示された。さらに解釈をすれば、職場体験に行って何らかの形で記憶や印象に残ることと、そこからさらにこれからの将来に対して何らかの形で考えを深めることは、一応別のものとして考えなければならないということが言える。ただし、因子間相関は.742と高く、この両者は密接に関連していることがうかがえる。

図表6-17には、職場体験後の自由記述量(文字数)と、職場体験前後の自信およびその変化、職場体験に対する感想などとの相関係数を求めた。その結果、最も値の大きな相関係数は、「職場体験先の人と話したことは」と職場体験に対する感想「情動」であり($r=.223$)、以下、「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」と職場体験後の「進学」に対する自信($r=.217$)、「職場体験先の人と話したことは」と職場体験に対する感想「理解」($r=.209$)と続いていた。

基本的に、職場体験後の自由記述量(文字数)は職場体験後の感想と関連が深いことが示されており、当然ながら、職場体験後に面白かったという感想を抱いたり、何からの形で理解が深まっている場合には、職場体験後の自由記述量は多かった。

また、職場体験後の自由記述量は職場体験前後の「進学」「就職」「人生」に対する自信とも、高い相関係数がみられた。特に「進学」に対する自信が高い場合には進学について考え

ることの自由記述量が多いと言った対応関係がみられていた。

ただし、職場体験の前と後でどの程度、自信が変化したかという職場体験前後の変化の値とは相関関係がみられなかった。つまり、職場体験前後の自信の変化と自由記述量には関連がみられなかった。そこで、この点について次項では分析することとした。

図表6-17 職場体験後の自由記述量(文字数)と
職場体験前後の自信およびその変化、職場体験に対する感想との相関係数

	覚え てい こと	楽し かつ こと	つま りか つこ と	自分 に立 つこ と	親と 話し こと	友達 と話 しこ と	職場 人と 話し こと	自分 の考 え方 が変 わつ こと	進学 につ いて 考 え こと	職場 につ いて 考 え こと	これ から の将 来に つい て考 えて いる こと	
職場体験前												
進学に対する自信	.068	.051	.002	.127	.082	.109	.107	.077	.131	.146	.088	.136
就職に対する自信	.042	.053	-.006	.108	.129	.125	.126	.075	.143	.136	.094	.140
人生に対する自信	.025	.048	.022	.114	.121	.102	.108	.078	.099	.090	.039	.105
職場体験後												
進学に対する自信	.136	.073	-.001	.174	.136	.144	.129	.138	.148	.217	.119	.161
就職に対する自信	.102	.066	-.051	.092	.142	.115	.101	.109	.126	.174	.112	.203
人生に対する自信	.098	.062	-.009	.127	.156	.120	.107	.134	.127	.172	.098	.183
体験前後の変化												
進学に対する自信	.071	.052	.020	.047	.092	.068	.035	.086	.050	.086	.060	.058
就職に対する自信	.046	.006	-.047	-.034	.020	-.002	-.021	.039	.006	.065	.044	.093
人生に対する自信	.049	.002	-.044	-.012	.012	.039	.005	.039	.027	.080	.067	.070
職場体験に対する感想												
明瞭化	.085	.159	.019	.126	.169	.117	.138	.135	.096	.133	.087	.168
情動	.133	.205	.061	.148	.182	.165	.223	.139	.089	.087	.107	.135
理解	.128	.158	.124	.159	.200	.152	.209	.183	.186	.126	.173	.138

※太字はp<.001以下で有意な相関係数。20以上の相関係数を口で囲み、網かけを行った。

(3) 職場体験前後の自信の変化と職場体験後の自由記述量の関連についての分析

前項で、職場体験後の自由記述量は、職場体験前後の自信の程度そのものとは関係がある一方、職場体験前後で自信がどう変化するかとはほとんど関係がないことが示された。すなわち、職場体験に関する自由記述量は、職場体験による自信の「変化」を示す指標とはならないと解釈できる結果が示された。

この点について、以前から、職場体験を行う学校現場では、職場体験前後の生徒の意識の変化が一様でないことが指摘されてきた。特に、総じて言えば、職場体験後に様々な面で生徒の意識面にポジティブな変化があるが、一方で、一部の生徒では職場体験後にかえって意識面でのネガティブな変化が表面上観察される場合があることが知られてきた。

そこで本章では、図表6-17に示されたように、職場体験後の自由記述量と職場体験前後の自信の変化にほとんど関連がみられないのは、職場体験後にポジティブな変化がみられ

る生徒とネガティブな変化がみられる生徒が存在するために、双方で相殺しあった結果ではないかと考えて分析を行うこととした。

特に、職場体験後にポジティブな変化がみられる生徒とネガティブな変化がみられる生徒の両者を分ける要因として、そもそも職場体験前に進学・就職・人生などの進路課題に対する自信が高かったか否かに着目した。その理由として以下のような仮説が考えられることによる。すなわち、そもそも職場体験前に進路課題に対する自信が低かった生徒は職場体験によって影響を受けて自信を高める余地が大きい一方、そもそも職場体験前に進路課題に対する自信が高かった生徒はもともと自信が高いのだから自信を高める余地が少なく、場合によってはかえって自信を低める可能性がある。このことをより平たく言えば、そもそも自信が低い生徒は職場体験による「伸びしろ」が大きく、そもそも自信が高い生徒は職場体験による「伸びしろ」が小さいという仮説が考えられる。特に、統計学的な観点から考えても、自信が高い生徒はすでに自信が上限まで高まっているという「天井効果」のようなものが考えられるのであり、そこから変化するとすれば下方への変化ということになる可能性が高いと考えられる。

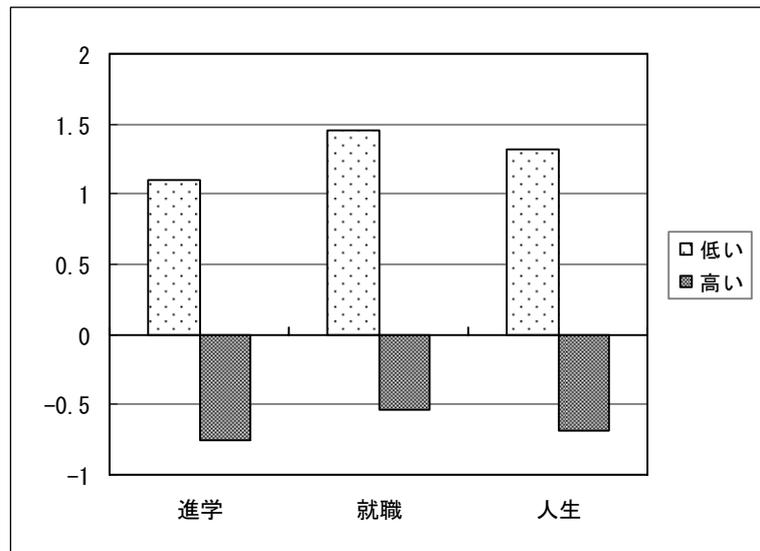
以上の仮説を検証するために、図表6-18では、職場体験前の自信の程度（高い-低い）別に、どの程度、職場体験前後で自信が変化したのかを示した。

図表6-18では、上述した仮説どおり、基本的に、もともと職場体験前の自信の程度が低い生徒ではプラス方向に変化しているのに対して、職場体験前の自信の程度が高い生徒ではマイナス方向に変化していることが示される。

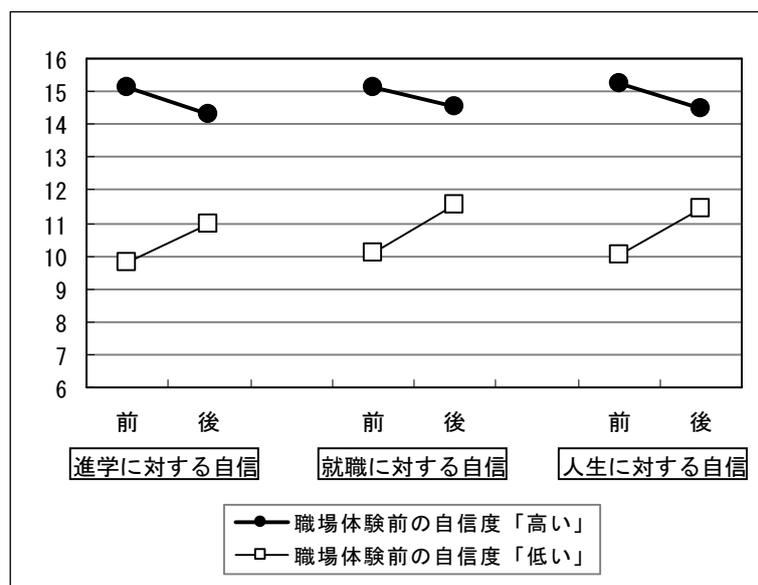
したがって、図表6-19に示されるとおり、総じて言えば、職場体験前に自信度の高かった生徒は職場体験後に自信が低くなり、職場体験前に自信度が低かった生徒は職場体験後に自信が高くなることを指摘できる。なお、図表6-19は「進学」「就職」「人生」に対する自信度のいずれも統計的に有意な結果が示されており（「進学」交互作用 $F(1,720)=81.55$ $p<.01$ ）、「就職」交互作用 $F(1,720)=83.83$ $p<.01$ ）、「人生」交互作用 $F(1,726)=75.76$ $p<.01$ ）、グラフ上で差がみられる箇所はおおむね統計的に有意な差が示されていると解釈することができる。

すなわち、職場体験の効果は、単純に職場体験後の進路意識をポジティブな方向に変化させるものではなく、むしろ事前に高すぎた進路意識は低くする方向で、逆に低すぎた進路意識は高くする方向で変化させるものであると可能性が高い。つまり、実際の職場を経験することによって、生徒が事前に考えているほどには悪くもなければ良くもないといった方向に意識を変化させるという点では、進路意識はより現実的な認識をもたせるものとして作用するといったことを、今回のデータからは暫定的に結論づけることができると思われる。

図表6-18 職場体験前の自信の程度別の職場体験前後の自信の変化①



図表6-19 職場体験前の自信の程度別の職場体験前後の自信の変化②



ここまでの分析のまとめとして、図表6-20～図表6-22では、職場体験前後の「進学」「就職」「人生」の各自信度の変化に影響を与える要因を、重回帰分析によって検討した。なお、各自由記述量は分布が偏っていたので（文字数が多い方に開いた分布）、全て対数変換を行って重回帰分析に投入した。

その結果、「進学」自信度に最も大きな影響を与えた要因は、上述したとおり「職場体験前の自信（ $\beta=-.41$ ）」であり、職場体験前の自信が高いほど、職場体験の自信の変化は小さいかむしろマイナスになるといった結果がみられた。また、「職場体験でいちばんつらかつ

たことは、(β=-.09)」も職場体験前後の自信度の変化に影響を与えており、職場体験でつらかったことに関する記述が多ければ多いほど、職場体験前後の「進学」自信度の変化は小さいことが示された。逆に「進学」自信度を高める要因としては「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは(β=-.11)」が統計的に有意となっており、将来の進学について記述が多ければ多いほど、自信度が高まるという結果となった。

図表6-20 職場体験前後の「進学」自信度の変化に影響を与える要因

	β	sig.
性別 (1=男子、2=女子)	-.02	
職場体験前の自信	-.41	**
職場体験後の自由記述		
体験した業務内容	-.03	
職場体験でいちばん覚えていることは、	.06	
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	.01	
職場体験でいちばんつらかったことは、	-.09	*
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	.03	
職場体験について、親と話したことは、	.06	
職場体験について、友達と話したことは、	.03	
職場体験先の人と話したことは、	-.02	
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	.02	
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	.02	
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	.11	*
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	-.03	
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	.01	
※βは標準偏回帰係数。 ** p<.01 * p<.05	説明率 R ² =.16**	

「就職」自信度に最も大きな影響を与えた要因も、上述の「進学」自信度の結果と類似しており、「職場体験前の自信(β=-.43)」が統計的に有意に影響を与える要因であった。職場体験前の自信が高いほど、職場体験の自信の変化は小さいかむしろマイナスになるといった結果となった。また、「職場体験でいちばんつらかったことは、(β=-.12)」も職場体験前後の自信度の変化に影響を与えており、職場体験でつらかったことに関する記述が多ければ多いほど、職場体験前後の「就職」自信度の変化は小さいことが示された。「就職」自信度を高める要因としては「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは(β=-.11)」が統計的に有意となっており、これからの将来に関する記述が多ければ多いほど、自信度が高まるという結果となった。

図表6-21 職場体験前後の「就職」自信度の変化に影響を与える要因

	β	sig.
性別 (1=男子、2=女子)	.02	
職場体験前の自信	-.43	**
職場体験後の自由記述		
体験した業務内容	.01	
職場体験でいちばん覚えていることは、	.03	
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	.04	
職場体験でいちばんつらかったことは、	-.13	**
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	-.03	
職場体験について、親と話したことは、	.05	
職場体験について、友達と話したことは、	-.02	
職場体験先の人と話したことは、	-.03	
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	.00	
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	.00	
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	.07	
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	-.01	
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	.11	*
※ β は標準偏回帰係数。 ** $p < .01$ * $p < .05$	説明率	$R^2 = .18^{**}$

「人生」自信度に最も大きな影響を与えた要因でも、「職場体験前の自信 ($\beta = -.47$)」が統計的に有意に影響を与える要因であった。職場体験前の自信が高いほど、職場体験の自信の変化は小さいかむしろマイナスになるといった結果となった。また、「職場体験でいちばんつらかったことは、 ($\beta = -.12$)」も職場体験前後の自信度の変化に影響を与えており、職場体験でつらかったことに関する記述が多ければ多いほど、職場体験前後の「人生」自信度の変化は小さいことが示された。

図表6-22 職場体験前後の「人生」自信度の変化に影響を与える要因

	β	sig.
性別 (1=男子、2=女子)	-.01	
職場体験前の自信	-.47	**
職場体験後の自由記述		
体験した業務内容	-.03	
職場体験でいちばん覚えていることは、	.05	
職場体験をしていちばん楽しかったのは、	.00	
職場体験でいちばんつらかったことは、	-.12	**
職場体験でいちばん自分に役立ったことは、	.01	
職場体験について、親と話したことは、	.05	
職場体験について、友達と話したことは、	.04	
職場体験先の人と話したことは、	-.03	
職場体験が終わって、これからやろうと思うことは	.00	
職場体験が終わって、自分の考え方が変わったところは、	.02	
職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、	.08	
職場体験が終わって、職場について、今、考えていることは、	.00	
職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、	.07	
※ β は標準偏回帰係数。 ** $p < .01$ * $p < .05$	説明率	$R^2 = .23^{**}$

本節では、職場体験後の自由記述の文字数に着目して、すなわち自由記述量に着目して分析を行った。その結果、①職場体験後の自由記述には、職場体験で経験した業務をどのように受け止めたかが反映されており、概して言えば、職場体験後の自由記述量は女子の方が多く、②職場体験後の自由記述量は、職場体験の感想（明瞭化、情動、理解）と密接に関

わっていたこと、③職場体験の自由記述量の分析結果から、職場体験は生徒本人の職業に対するより現実的な認識を持たせるといった効果（高すぎる進路意識は低め、低すぎる進路意識は高める）があることなどの結果が明らかになった。

4. 職場体験後の自由記述の質的検討(内容面の検討)

(1) 「職場体験先でいちばん覚えていることは」

本節では、引き続き、職場体験後の自由記述の分析を行うが、前節で自由記述量を分析したのに対して、本節では自由記述の内容面を検討する。

ここでは、前節で使用したデータセットのうち、調査の都合上、職場体験後のデータしかとれなかったため、前節では分析に含められなかったデータ 315 名分を使用する。

まず、「職場体験先でいちばん覚えていることは」という自由記述に着目した。この項目は、職場体験後の自由記述を求めた項目の中ではいちばん最初の項目であり、職場体験について最も印象に残ったことが表出されやすいと考えられたことによる。図表 6-13 においても、いちばん自由記述の文字数が多かったのはこの項目であり、職場体験後の生徒が特に多く記述した項目でもあった。

分析にあたっては、生徒の自由記述にどのような単語が頻出するのかに着目した。315 名の自由記述に用いられた単語を検索し、頻出した単語を手がかりに、生徒の自由記述の全体的な傾向について考察を行うこととした。

図表 6-23 に「職場体験先でいちばん覚えていることは」に対する自由記述で頻出した単語を示した。最も多かったのは「子供（子どもを含む）」であり、約 14.6%にあたる 46 名の生徒が「子供（子ども）」という単語を用いて自由記述を行っていた。以下、「遊んだ（あそんだを含む）」「話」「仕事」「職場」と続いていた。

図表6-23 「職場体験先でいちばん覚えていることは」という設問の自由記述で頻出した単語

	出現頻度
「子供」（「子ども」を含む）	46 14.6%
「遊んだ」（「あそんだ」含む）	42 13.3%
「話」	23 7.3%
「仕事」	19 6.0%
「職場」	12 3.8%
「客」	12 3.8%
「たくさん」	11 3.5%
「レジ」	11 3.5%

今回のデータに限らず、保育園・幼稚園は女子中学生が最も希望する職場体験先であり、相当数の生徒が保育園・幼稚園で「子ども」と「遊んだ」ということを経験している。そのことを反映した結果であると解釈される。

また、「話」という単語が頻出した理由を調べるために、「話」が含まれる自由記述の一部を図表 6-24 に抜き出した。図表 6-24 から、職場体験先の人または職場体験先の老

人や客と話したことに関する記述が多いことが分かる。職場体験先で中学生が印象に残る出来事の1つとして、職場体験先での人との会話があることがうかがえる。

図表6-23では「仕事」「職場」「客」なども頻出しているが、職場体験先における仕事そのもの、職場そのもの、そこでの客との接触も生徒の印象に残っていることがうかがえる。

結局、職場体験先で生徒がいちばん覚えていることとして頻繁に記述されることは、「子ども」も含めて職場体験先の人と接触して話をするのであり、その中で様々な仕事・職場を経験することであると言えるであろう。

図表6-24 「職場体験先でいちばん覚えていることは」という設問の自由記述で「話」という単語が含まれる自由記述(一部)

赤ちゃんをお風呂に入れたこと。産後のお母さんの話
GHで認知症の人とお話したこと
職場の人達と話したこと。体験した内容
担当の方の芸能界での話・・・映画やCMなど・・・
職員の方が仕事の大変さやりがいを話してくれたこと
携帯の加入登録などをしたことや、職場の人と話した事
御老人の話
お年寄りの方に色々な話をしてもらったこと
いろいろな人から昔話をきかせてもらったこと
老人とお話をしたこと
最終日の「仕事について」の話
お年寄りの方とお話しをしたこと
88才になるまでたばこは吸ってはいけない、とか色々な話を聞いた事
お話
校長先生との話
お客様と職業体験についてなどをお話したこと
職場体験先の人といろいろ話をしたこと

(2) 「職場体験先の人と話したことは」

それでは、職場体験先で、職場体験先の大人と、中学生は何について話をしているのか。図表6-25には「職場体験先の人と話したことは」という設問の自由記述で頻出した単語を示した。最も多かったのは「仕事」であり、約20.6%にあたる65名の生徒の自由記述で出現した。「仕事」の単語は図表6-25にある「内容」の単語とあわせて出現することがあり、当然ながら、職場体験先の人と話した内容として仕事内容に関するものがあることがうかがえる。

ただし、図表6-25では「学校」「部活」「中学」などの単語も頻出しており、職場体験先の人と学校でどんなことがあったかといった世間話をしている様子がうかがえる結果となっている。これは「いろいろ」という単語が上位に挙がっていることとも符合するが、結局、職場体験先の人と話をするといっても、それほど深い話をしている訳ではなく、仕事内容についての話か、そうでなければ学校の話在世間話のように行っているというのが実際のところであると言える。

逆に言えば、その程度のことであっても、学校とは異なる職場という場面で、教師とは異なる職場の人と話をすることそのものが、中学生にとっては印象深い経験となり、ここで見知らぬ大人と話をすること自体が、職場体験において経験することの一部を形作っているのだとも考えることができるであろう。

なお、図表6-26には、「職場体験先の人と話したことは」という設問の自由記述で「仕事」という単語が含まれる自由記述のうち20文字以上の一部を示した。より字数が短いものは、おおむね「仕事のこと」「仕事の内容」「仕事について」など簡単な記述が多かった。

図表6-25 「職場体験先の人と話したことは」という設問の自由記述で頻出した単語

	出現頻度	
「仕事」	65	20.6%
「学校」	61	19.4%
「いろいろ」(「色々」を含む)	22	7.0%
「部活」	20	6.3%
「内容」	19	6.0%
「なし」	16	5.1%
「中学」	14	4.4%
「職場」	13	4.1%
「大変」	11	3.5%

図表6-26 「職場体験先の人と話したことは」という設問の自由記述で「仕事」という単語が含まれる自由記述(一部)

一日の仕事の流れ、どんな仕事をしたかなど
保育という仕事に少しついてみたいと話した
その仕事をやってみてどうだったか聞かれる
仕事のたいへんだった所、おもしろかった所などです
最初のうちは緊張するけど、しだいに仕事を楽しくなる
アドバイスなどもらったり、この仕事でうまくやる方法など
アドバイスなど、家ではどおとか、将来この仕事につきたいか
将来のことについてやこの仕事をやってどうだったかのかなど・・・
その日、その日の仕事のことや、わからないことを聞き、教えてもらった
仕事の大変さや子供達との関係や子供についての話、仕事の内容を話した
「レジ打ちが難しい」などと言っていました。そのほかいろいろな仕事について
仕事のことや、近所のこと(この辺にいいところあるよ。)みたいな話もした。たくさん話した
体験させていただいていた仕事は大変かどうかを話したり、利用者様の中には色々な人がいること
仕事は苦しいときもつらいこともあるけど、その分たのしきさだってあるということ話をしてくださいました
引き受けていただいた事に感謝しつつ、仕事はなぜしなければいけないの?ということや、ニートという人がいるけど、その人についてどう思う?ということを聞いたり聞かれました。

(3) 「職場体験でいちばんつらかったことは」

図表6-27には「職場体験でいちばんつらかったことは」という設問の自由記述で頻出した単語を示した。最も多かったのは「ない」であり、約13.3%にあたる42名の生徒の自由記述で出現した。「ない」という単語は、図表6-27で同様に頻出単語として挙げられて

いる「特に」を伴って出現しており、職場体験でつらかったことは特にないという自由記述が一定数を占めていたことを示す。

実際に辛かった内容としては、「ずっと」「立って」作業することを挙げた生徒が多かった。また「仕事」や「そうじ」という単語も比較的多く挙がっており、職場体験先での実際の仕事の内容、特に長時間の立ち作業や掃除を辛かったとして挙げる生徒が多いことがうかがえる。

図表6-27 「職場体験先でいちばんつらかったことは」という設問の自由記述で頻出した単語

	出現頻度
「ない」	42 13.3%
「特に」（「とくに」を含む）	31 9.8%
「立って」（「立ち」を含む）	30 9.5%
「ずっと」	19 6.0%
「仕事」	17 5.4%
「そうじ」	16 5.1%

なお、前節で進路課題自信尺度の変化に影響を与える要因を検討した際（図表6-20～図表6-22）、この「職場体験先でいちばんつらかったことは」の自由記述量が、進路課題の自信の変化に負の影響を与えることが示されていた。

そこで、図表6-28には、「職場体験先でいちばんつらかったことは」に対して30文字以上を記述している長い自由記述を抜粋して示した。図表から、おもに体力的な辛さに言及がなされていることが分かる。文部科学省「平成18年度体力・運動能力調査」の結果にも示されるとおり、職場体験学習に参加する14歳という年齢は、一般に考えられているよりは体力的に未発達な面が多く、多くの指標でピークとなる20前後の年齢に比べると、全般的に7～8割程度の体力しかない。図表6-27から、職場体験先で辛い経験をすることはあまり多くないということが言えるとしても、場合によっては、十分な休養をはさむなどの配慮がなされる必要があることが示される。

図表6-28 「職場体験先でいちばんつらかったことは」という設問の自由記述のうち 30 文字以上の自由記述内容

はたきがけと、小さい細かい系の品出しがつかったです。はたきはものすごく足も手も肉が痛かったです(筋肉痛)。小さ目の物の品出し、並べは向きとか、すごい大変でした。(やり直したり)場所変更で
通勤が一番大変でした。のりかえが1回あって約30分くらいあって、よく、道にまよったりして、大変でした。一回みんなで林の方にいってしまいました
ハタキがけ(一度商品をどけてから棚の中をハタキがけする)がめんどくさかったです。あと、ずっと立ちっぱなしで重いものを運ぶこと
返却ポストからカウンターに本を運ぶことでした。本を落とさないようにしながら、しかも手ばやく仕事をこなすことはたいへんでした
薪運び。特に4日目の薪運びは大地沢にある薪をトラックに入れて、それを公園におろすときはすごくつかれて眠くなった
初日に作った国に提出さうる地図が、色鉛筆(色鉛筆)で色をぬったので、とても精神力がもたなかった
子供とたくさんあそんだことと職場体験に行く時と帰る時の1時間以上1人で歩いたのがつらかった
仕事がほとんど楽しく感じた。でも力仕事がおおくて室内の仕事だったから汗をかいてあつかった
お年寄りの方とのコミュニケーション。どうしても会話が続かなくなり、沈黙がつづいてしまう
男の子がいけないことをしていて、それをどのように注意すればいいかわからなかったこと
子供達にずっとおんぶしていて「疲れた。」といっても「やだ!!」と言い、大変でした
お客様が来た時に「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」などと声を出すこと
幼稚園児が帰った後の清掃と、明日の準備や、2時間ずっと遊ぶことが一番きつかった
劇の大道具の制作を手伝った時、制服でやったので、のりがいっぱいついて大変でした
レジ打ちです。お客様をお待たせしてはいけないというあせりがつらかったです
校長先生から出される質問について答えるときや、遅くまで時間がかかったとき
本が入った重いダンボールを何回も運んだり、持ち上げたりしたこと
立ちっぱなしで体力がもたない。失敗してはいけないと思い負担がかかる
オーダーがたくさん入って、何を頼まれたか覚えられなかったことです
授業中にやることがなかったため、うしろで見ているだけだったこと
立ちしごが多かつかれたこと、冷たい水でそうじをしたことです

(4) 「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、」

前節の分析では「進学」に対する自信度に「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、」の自由記述量が影響を与えていた(図表6-20)。そこで、この「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」の自由記述内容について、ここで検討を行うこととする。

「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」の自由記述内容では、ほとんど内容的にバリエーションがないのが特徴である。すなわち、基本的には何も書いていないか、書いてあれば高校進学に向けて頑張るといふ意気込みが書かれてあるのが一般的である。

むしろ、この自由記述における最大の特徴は、高校進学に向けて頑張るといふことを、いかに自分なりに掘り下げて自由記述するかにあると言える。

図表6-29に、自由記述量による「職場体験が終わって、進学について、今、考えてい

ることは」の自由記述内容の違いを示した。文字数が多いほど、進学することの意義・理由が明確に書かれてあり、また、それに向けて具体的にどうするかということが詳しく書かれてある。自由記述の文字数が異なるため、当然とも言える結果であるが、結局のところ、同じような職場体験を行っても、そこから将来の進学についてどの程度の意味を引き出せるかは、本人の受け止め方によるところが大きいことが示される。

図表6-29 「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは」という設問の自由記述内容(自由記述量による違い)

自由記述量が多い上位10名の生徒の記述内容
どんな職に就くにしても基本となる勉強、知識が求められるので、ちゃんと高校や大学に行ってもこれからは勉強しようと思いました 受験本番直前で困ることのないよう、今のうちからこつこつ勉強しようということ(得意先で教えてもらったこと) まだ、行きたい所まで成績が足りていないので、まずは、学力向上を目指し、常に努力していきたいと思う 保育についてもっと知りたいので、そのような学校へ行く。そのため、なるべくレベルが高い高校に行く 私はまだ半人前で就職するにはまだ早く、高校で社会について、もっと学ぶべきだということ 高校にあがって、アルバイトをしたとしても、絶対、仕事を甘くみないようにしようと思いました いろいろ考えていますが、くわしくは決まってません(獣医学部があるところなど) できるだけ、自分に合った進学先を今からゆっくりと考えていこうと思った 自分のやりたいことをちゃんとさがしてそれに向かっていろいろ考える 自分の行きたいところに行くのはもちろんだけど、校風なども考えて決める
自由記述量約20文字の10名の生徒の記述内容
進学については職場体験では考えられなかった とくいなことに自信を持ち、とにかくがんばる 自分の将来の夢に向かって自分で道を決めたい 志望校を今年中から来年の2月位までに決める 就職に有利なように上を目指そうと思います どこに行くにしても、がんばって勉強したい 今はとりあえずちゃんとした高校に入学する がんばって出来る限りいい高校には行きたい 楽しい高校生活をおくるためにがんばりたい 高校卒業後は→短大→国家試験→合格→仕事
自由記述量約10文字の10名の生徒の記述内容
ちゃんと考えられている このままで行けるか不安 進学については特に何も どこの高校を受験するか これから考えようと思う とりあえずは高校に行く 希望の高校に入りたい 勉強が大事だと思った どこの高校にいこうか 職場は将来に関係ない
自由記述量約5文字の10名の生徒の記述内容
高校に行く とくになし とくになし あまりない とくになし 変化はなし とくになし とくになし ありません あまり無い

(5) 「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、」

前節の分析では「人生」に対する自信度に「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、」の自由記述量が影響を与えていた(図表6-22)。そこで、この「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、」の自由記述内容についても検討を行うこととした。

ただし、この自由記述内容は、おおむね前項の「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、」と結果の傾向が類似しており、記述内容のバリエーションは記述量(文字数)と密接に関連していた。何よりも、記述量そのものが前項の「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、」と本項の「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは、」では関連が深く、順位相関係数は.647となっていた。進学について多く自由記述を行った生徒は、人生についても多く自由記述を行ったことが示される。

図表6-30には「職場体験が終わって、進学について、今、考えていることは、」の設問に対する自由記述内容を文字数別に整理したものを示した。図表6-29と同様、文字数が多いほど、将来に対するより積極的、具体的な記述が見られており、文字数を多く書けるということが、そのまま将来に対する進路意識の高さを表していると解釈できるような内容の自由記述になっている。

なかでも、「自分の夢をしっかりと持って、その夢にむかって頑張ろうと思います。将来仕事はしっかりとやる」「自分の得意なことを仕事にできて、楽しく過ごせるようにするにはどうすべきかということです」「やっぱり将来仕事をするならば、やりがいのある、自分に向いている仕事がしたいと思う」「一度しかない人生を、自分の一番やりたいしごとについて、有意義に過すこと」など、「自分」という言葉を用いて自由記述を行うのは自由記述量の多い生徒によく見られる傾向である。これからの将来のことを「自分の夢」「自分の得意なこと」「自分に向いている仕事」「自分の一番やりたいしごと」との関連で考え、そのことについて文章の形で記述できるということが、将来に向けた自由記述の最も高いレベルのあり方であるといった解釈もできるのではないだろうか。

図表6-30 「職場体験が終わって、これからの将来について、今、考えていることは」という設問の自由記述内容(自由記述量による違い)

<p>自由記述量 30 文字以上の生徒の記述内容</p> <p>どんな仕事についても、最後まで逃げ出さないということを、常に、頭に入れ、これからの将来のことについて考えていこうと思う</p> <p>やりたいと思っていること一筋じゃなくても、他の事をやってみれば、それはそれなりに良いと思った自分がどの道に進むのかはまだまだわかりませんが、少しずつでも考えてみる良い機会になりました</p> <p>やはり、接客等ではなく、1人や2人、又は数人で1つの仕事をやるような事に向いていると思った自分の夢をしっかりと持って、その夢にむかって頑張ろうと思います。将来仕事はしっかりとやる</p> <p>将来の夢は主婦ですが、働くお父さんをしっかりと支えてあげられる良いお母さんになりたいです</p> <p>上記と同じで(人と接するしごとがいいなと改めて感じます)、人の役立てる人になりたいです</p> <p>自分の得意なことを仕事にできて、楽しく過ごせるようにするにはどうすべきかということです</p> <p>やっぱり将来仕事をするならば、やりがいのある、自分に向いている仕事をしたいと思う</p> <p>仕事の重要さをもっときちんと理解して、真剣に考えてやっていきたいと思っています</p> <p>大人になって勉強しなくてイイなと思ってたけど全然楽じゃないことがわかった</p> <p>自分が将来どのような仕事につきたいのか、それが自分に向いているのかどうか</p> <p>私立高校→付属短大→モデル→留学 モデルは高校でオーディションを受ける</p> <p>一度しかない人生を、自分の一番やりたいしごとについて、有意義に過ごすこと</p> <p>とりあえず高校へ行ったらアルバイトをしてそこから先を考えたいと思った</p> <p>この職場体験で学んだことを生かした、将来の夢を持ちたいと思っている</p> <p>保育士は自分にあっているかなあーと思った(子供が好きだから)</p> <p>音楽関係の仕事につきたいので、あまり将来について考えられない</p> <p>仕事の責任を持てるような、また生きがいが持てる仕事に付きたい</p> <p>どれになりたいか、どれが自分にあっていて責任をもってできるか</p>
<p>自由記述量 20 文字の生徒の記述内容</p> <p>自分の力を十分にはつきできる道に進みたい</p> <p>自分にあつた職場に将来いけるようにしたい</p> <p>有意義に過せて、自分に合ったことをしたい</p> <p>保育師(士)になるのもいいかもということ</p> <p>子供と接するッ仕事につきたいと思っている</p> <p>どんなこともしんけんととりくむようにする</p> <p>自分の生きがいとなるしごと！！につきたい</p> <p>「自分のやりたいことをしよう」ということ</p>
<p>自由記述量 10 文字の生徒の記述内容</p> <p>人のためにつきたい</p> <p>目標に向かって頑張る</p> <p>とりあえず高校に行く</p> <p>小説家になりたいです</p> <p>英語を使う仕事がいい</p> <p>もっと努力しなきゃな</p> <p>新体操の先生がしたい</p> <p>まだ、決まっていない</p> <p>夢が叶うように頑張る</p> <p>普通の人生を歩みたい</p>
<p>自由記述量 5 文字の生徒の記述内容</p> <p>とくになし</p> <p>あまりない</p> <p>分からない</p> <p>とくになし</p> <p>とくになし</p> <p>考えてない</p> <p>とくになし</p> <p>とくになし</p> <p>とくになし</p> <p>とくになし</p> <p>とくになし</p>

5. 本章のまとめと示唆

(1) 本章の結果のまとめ

本章では、前章の検討を受けて、職場体験前後の進路課題に対する自信の変化について、より詳細な検討を行った。以下に、本章で得られた主な結果を概括する。

①全般的に、職場体験後には、進路課題に対する自信は高まることが再確認された。

②職場体験後の感想は、本章のデータでは、(ア)自分の将来の目標などが明確になったという「明瞭化」因子、(イ)働くことに関する理解が深まったという「理解」因子、(ウ)面白かったなどの感情的な印象に関わる「情動」因子の3つの側面からとらえることができ、いずれも女子の方が男子よりも値が大きく、職場体験に対するポジティブな感想が多かった。

③職場体験の感想は「明瞭化」「理解」「情動」のいずれの因子でも職場体験前後の自信の変化に影響を与えており、ポジティブな感想をもつ生徒では職場体験後の自信の値が大きくなっていたが、ネガティブな感想をもつ生徒では職場体験後の自信の値は大きくならなかった。ただし、厳密に検討を行うと、特に自分の将来の目標が明確になったなどの「明瞭化」の因子の値が大きいほど「進学」「就職」「人生」のいずれの自信の変化も大きくなることがうかがえた。

④職場体験で経験した業務に関する自由記述量は女子の方が男子よりも多かった。また、自由記述量が多いほど職場体験の感想「理解」「情動」の値も高いという結果が示された。

⑤職場体験後の自由記述量と職場体験前の自信・職場体験後の自信はどちらも関連が深かったが、職場体験前後での自信の変化量とは関係がなかった。

⑥その理由を検討した結果、職場体験前にもともと自信が高い生徒は自信が低まる方向で、職場体験前にもともと自信が低い生徒は自信が高まる方向に変化していたためであることが分かった。すなわち、職場体験の結果、高すぎる自信は低くなり、低すぎる自信は高くなるという結果が示された。

⑦職場体験後の自由記述の内容を質的に分析した結果、(ア)職場体験先でいちばん覚えていることは職場体験先の人との接触であること、(イ)職場体験先の人と仕事や学校の話などの世間話をしたことが印象に残っていること、(ウ)職場体験で辛いことがあるとすれば、立ち作業を続けるなどの体力的なものであること、(エ)進学や将来のことについて自由記述量が多いほど進路意識が高く、自分との関わりで職場体験から多くの意義を見いだしていることなどが明らかになった。

(2) 本章の結果による示唆

本章の結果の中から、今後の学校段階のキャリア形成支援に向けて特に重要となる示唆を、以下の3つの点に整理して述べる。

第一に、職場体験学習をいかに感じるかという側面で明確な性差がみられるという点である。本報告書の随所で繰り返し指摘される性差であるが、基本的に女子の方が進路意識も高

く、それ故、キャリア形成支援の効果も高いということが繰り返し明らかになっている。職場体験に限って言えば、これは、心理学全般で指摘されるとおり、女子の方が言語能力が高く表出性が高いといったことがあるために、見知らぬ職場体験先の人とも容易にコミュニケーションをとりやすく、それ故、職場体験によって意味のある印象や刺激を受けやすいといったことがあることが予測される。こうした言語能力や表出性の高さゆえに、職場体験後の自由記述量が多い。本章の結果から、職場体験後の自由記述量の多さは、おおむね職場体験で有益な経験をしたか否かと関連していると解釈できることから、これらが相乗効果となって良い効果をもたらしていることが推測される。基本的に、職場体験学習が男子よりも女子にとって有意義なキャリア形成支援になりやすいというのは、本章全体を通じての示唆の1つである。

第二に、職場体験学習が事前に進路選択に対する自信が高い者の自信を低め、事前に進路選択に対する自信が低い者の自信を高めるということを、本章では客観的な数値データとして明確に示すことができた。従来、職場体験学習が、体験後に単純に進路意識を高める訳ではなさそうだということは、これまで職場体験学習に関わってきた教員の間では繰り返し言われ続けてきた。今回のデータを一般化して解釈すれば、中学生が現実の職場を経験することによって、高すぎる進路意識は低くなる方向で、低すぎる進路意識は高くなる方向で変化すると言える。つまり、職場体験には、リアルな職場を経験することによって、中学生の進路意識をより現実に即したものに現実化（平準化）する効果があると考えておくことができるであろう。事前に進路意識が低い者にとっては、世間一般に言われているとおりに職場に対する不安を減らし、職場に対する距離感を縮める効果がある。一方で、進路意識が高い者では、漠然とした憧れや不十分な知識に基づく誤解が解かれ、よりシビアな認識をもつに至ると言える。こうした一時的な進路意識の低下は、産業組織心理学において言われるところの「リアリティ・ショック」またはその予防策として位置づけられる「リアリスティック・ジョブ・プレビュー」と関連づけて解釈することができる。すなわち、もともと進路意識が高い生徒にとって、現実の職業を目の当たりにして一時的に進路意識が低まること、さらにそうした一時的な進路意識の低下をその後のより現実的な進路意識の形成に向けた良い契機と考えることができるであろう。したがって、もともと進路意識の高い生徒にとっては、一時的に進路意識が低まることはネガティブに解釈されるべきものではなく、より一段高い進路意識へと発達する1つのプロセスとして考えられることができるであろう。

第三に、職場体験後の自由記述量が、職場体験学習の効果測定に使用できる可能性を明らかにすることができた。職場体験の学習効果をいかに測定するのかは、これまで全国の中学校で課題となってきた。様々な形で進路意識が測定され、様々な観点から進路意識の変化が報告されてきた。しかし、本研究の結果、よりシンプルに、たんに職場体験後の自由記述量を観察することによって、かなりの部分、職場体験後の進路意識が予測可能であることが示された。これは、本章の結果、職場体験後の自由記述量が進路課題に対する自信と密接に関

連していたことから示される。また、結局のところ、職場体験学習後に有益な効果があったか否かは、職場体験学習の印象や記憶をいかに多くの言葉で表現できるかに、かなりの部分収斂してくるということも言えるであろう。心理学の他の分野では、自由記述データから、多くの情報を得ようとする研究例は多く存在しており、キャリア形成支援における質的・定性的なアセスメント技法の開発に向けた1つの重要な基盤データになると思われる。

以上、本章の結果に基づく示唆を述べたが、概して言えば、職場体験学習は生徒にポジティブな意識変化をもたらすということは、繰り返し強調しておきたい。本章の自由記述データの内容からは、学校とは違う場面で、教員とは異なる大人と学校や仕事に関する他愛のない世間話をするだけでも、中学生にとっては大きな刺激となり、将来の進路を考える契機となっている可能性がうかがえた。

職場体験の受け入れ先には、相応の負担がかかることも確かではあるが、今後もキャリア形成支援の有益な取り組みの1つとして、社会全体で協力的な体制を築き上げていくことの重要性は、本章の結果から示すことができたものと思われる。

【引用文献】

坂柳恒夫・清水和秋 1990 中学生の進路課題自信度と性役割自己概念との関連 進路指導研究 11 18-27.

※第5章、第6章では、データ収集にあたって、町田市立町田第一中学校の山田智之教諭の協力を得た。本来、共同研究として行った研究でもあり、記して感謝申し上げたい。